



「優秀賞」を受賞する

南日本ハム株式会社 高口 淳 社長



高口社長とともに、受賞功労者の二人

左は 難波裕扶子さん、 右は 長町紗嬉さん



(3)
2018年(平成30年) 6月 13日

看板を前に握手を交わす徳丸社長(左)と三輪会頭(右)。11日、南日本ハム

経産省のキャリア教育アワード優秀賞 南日本ハムに祝福の看板

日向商議所
が贈呈――

経済産業省主催の平成29年度(第8回)キャリア教育アワードで大企業部門優秀賞を受賞した南日本ハム徳丸四郎社長、日向市財光寺に日向商工会議所三輪純司会頭は11日、受賞を祝う看板を贈呈した。

キャリア教育を推進する企業や団体を奨励するため、経産省が平成22年度に創設した。29年度は43件の応募があり、経済産業大臣賞3件(うち1件大賞、優秀賞5件、奨励賞5件)を選出した。南日本ハムは「食をめぐる教育」を「人つくり地域づくり」の軸と位置付け、「食」をテーマとして打ち出した発想力などが評価された。実際に「食」をテーマにした「命をいただく」というのは「命を大切にすること」ということ。テーマに「食」をテーマに、食肉処理した豚肉を使った小学生を対象

のソーセージ作りの出前授業や大学生対象の企業見学などを実施している。看板の贈呈式は財光寺の同社であり、三輪会頭や日向市キャリア教育支援センターの水正憲セクター長が出席。三輪会頭が徳丸社長に目録を手渡した。

三輪会頭は、日ごろの地域貢献活動に感謝し、「食育や職業教育など積極的な活動が認められた。ますます発展されることを願っています」と授業や大学生対象の企業見学などを実施している。徳丸社長は、同23年から本格的に食育の活動に取り組み始めたことを紹介し、立派な看板をいただいた。これを励みに今後、地域に根ざした会社としてしっかりと歩み、これまで以上に努力していきたい」と話した。

看板は縦90センチ、横30センチ。5月14日から同社の入り口横の壁に設置されている。

第8回キャリア教育アワード 受賞者事例

別紙 1

経済産業大臣賞（大賞）

※経済産業大臣賞受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等

大企業部：阪急阪神ホールディングスグループ（阪急阪神ホールディングス(株)、阪急電鉄(株)、阪神電気鉄道(株) 他 29 社）

経済産業大臣賞（最優秀賞）

中小企業部：一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会

コーディネーター部：富山県中学生ものづくり教育振興会

優秀賞

大企業部：南日本ハム株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

中小企業部：株式会社ピュアタウン苅田

株式会社エデュケーションアルネットワーク イー・スタッフ

コーディネーター部：いしかわ就職・定住総合サポートセンター（ジョブカフェ石川）

奨励賞

大企業部：キリン株式会社 こども国連環境会議推進協会

三菱電機グループ

中小企業部：仙台商工会議所青年部（仙台 YEG）

特定非営利活動法人ハナラボ

コーディネーター部：株式会社キャリア・ナビゲーション

経済産業大臣賞（大賞）

部 門	大企業部
団体名	阪急阪神ホールディングスグループ（阪急阪神ホールディングス(株)、阪急電鉄(株)、阪神電気鉄道(株) 他 29 社）
プログラム名	小学生向けキャリア教育プログラム ①「阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊」②「ゆめ・まち わくわく WORK プログラム」
取組内容 （概要）	幅広い事業領域を持つ企業グループとしての強みを活かし、小学生向けに夏休みに行う体験型学習プログラム「阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊」、学校教育向けに社員が小学校に出向き出張授業を行う「ゆめ・まち わくわく WORK プログラム」を実施。多種多様な事業現場での職業体験や、まちを支える様々な仕事と自分の興味・関心との繋がりを考える機会を提供。

経済産業大臣賞（最優秀賞）

部 門	中小企業部
団体名	一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
プログラム名	魅力発信プロジェクト
取組内容 （概要）	大学生が企業の一員として、中小企業の若手社員とプロジェクトを組み、半年をかけて採用パンフレットの作成を行う。成果発表の場「魅力発信グランプリ」でそれぞれの成果を競い合うと共に、その過程におけるセミナー等を受講することで、PDCA サイクルを回せるようになり、学生自身の就職観の醸成と企業を見る眼を養い、「社会人基礎力」を身につけることを目指す。

部 門	コーディネーター部
団体名	富山県中学生ものづくり教育振興会
プログラム名	中学生ものづくり教育事業
取組内容 （概要）	主に中学校 1 年生に対し、ものづくりへの早期からの理解と興味喚起を促し、将来の富山県のものづくり強化に向けた人材定着を目指すため、ものづくり現場の最前線で活躍する人の出前授業を行う「講師派遣事業」、「企業見学事業」、さらに、中学校が理科・技術の授業で使用する教材の購入費を支援する「教材等支援事業」を実施。

優秀賞

部 門	大企業の部
団体名	南日本ハム株式会社
プログラム名	学びの種まき隊
取組内容 (概要)	持続可能な社会の実現に向け、積極的な教育CSRは未来への投資であると捉え、『「食えることは、生きること」～「命をいただく」ということは「命を大切にする」ということ～』を活動テーマに、自己肯定感、他者を大切にする心、職業への理解、ふるさと教育、社会・世界と自己の関わり、就業意識の醸成へと繋ぐ企業見学、出張授業、セミナー等を実施。
団体名	東日本旅客鉄道株式会社
プログラム名	「鉄道と情報ネットワークの秘密を探れ」「環境にやさしい鉄道の秘密を探れ」
取組内容 (概要)	次代を担う子どもたちに「環境問題」や「社会とのつながり」を理解してもらうことを目的に、環境担当者に加え現役の駅員・車掌・運転士などが講師となって、自身の仕事の経験を含めながら、鉄道という公共インフラを題材に環境やくらしについて考える「出前授業」を展開。

部 門	中小企業の部
団体名	株式会社ピュアタウン苅田
プログラム名	キッズ・マーケット
取組内容 (概要)	苅田町内の小学生を対象に、苅田町商店街にて、仕入から宣伝・販売・決算に至るまでの体験販売の場を提供することにより、流通の仕組みやお金の大切さを学ぶとともに、子供たちの自主性・創造力・分析力・表現力・コミュニケーション能力を伸ばし、「生きる力」を育むことを目的とした事業を実施。
団体名	株式会社エデュケーショナルネットワーク イー・スタッフ
プログラム名	トップネット私学教員養成所
取組内容 (概要)	大学4年生・大学院2年生を対象に主に私立学校において「4月から即戦力として働ける教員を養成する」ことを目指し、「学校訪問」、「教育実習前講座」、「夏期集中講座」、「採用対策講座」などにより、自己理解と他者理解、さらに各々の教育観を深め、社会人としての意識改革によって、学生の能動的な「私学教員」としてのキャリア選択を支援。

部 門	コーディネーターの部
団体名	いしかわ就職・定住総合サポートセンター（ジョブカフェ石川）
プログラム名	いしかわ創生インターンシップ推進プログラム
取組内容 (概要)	石川県産業の次代を担う人材確保を支援するため、産学官が連携し、インターンシップ実習を軸とする通年型プログラムを実施。実習の事前・事後の研修および地元企業の若手社員との交流会を通じ、自身に足りないものや理想の働き方・暮らし方について、就職活動期までに学生が自ら発見し、今後の学生生活の課題を明確化する機会を提供する。

奨励賞

部 門	大企業の部
団体名	キリン株式会社 こども国連環境会議推進協会
プログラム名	キリン・スクール・チャレンジ
取組内容 (概要)	中高生を対象として、持続可能な農園認証制度・森林認証制度の普及などをテーマに、飲みものを通して「豊かな地球のめぐみを将来につないでいく」ために、どうすれば良いかを議論し、考え、同世代に伝えていくことを目的としたプログラムを実施。
団体名	三菱電機グループ
プログラム名	みつびしでんき科学教室
取組内容 (概要)	小・中・高校生を対象に、電気や熱、音、光、風、通信、プログラミングなどにかかわる基本原理を、実験や工作を通して体感してもらう「みつびしでんき科学教室」を全国で開催。理科の面白さを伝えるとともに、実社会で活用されている自社製品と関連付けた内容で実施。

部 門	中小企業の部
団体名	仙台商工会議所青年部（仙台 YEG）
プログラム名	仙台で輝く企業人と語ろう！！～きっと広がるこれからの未来～
取組内容 (概要)	宮城県の大学、短大、専門学校生全学年を対象として、地域で活動している熱い思いを持った中小企業の若手経営者・経済人と近い距離感で、地域企業で働くことや事業経営について知ってもらうため、事業所数社を回り、業界の詳しい話などを聞ける職場体験・学習事業を実施。
団体名	特定非営利活動法人ハナラボ
プログラム名	あたらしい、わたらしい働きかたと出会う、女子学生のためのキャリア教育プログラム
取組内容 (概要)	女子学生を対象に「学生記者スクール」を実施。「女性のキャリア」をテーマに、学生記者が働く女性への取材・記事執筆を担い、Web マガジン「ハナジョブ」で全国に発信している。また、社会人女性と学生の交流イベントを通して、多様なキャリアと出会う機会を提供している。

部 門	コーディネーターの部
団体名	株式会社キャリア・ナビゲーション
プログラム名	インターンシップコミュニティ PSF (Professional Student Firm)
取組内容 (概要)	大学生を対象に、主に中小・中堅企業と連携して、学業を優先できるよう週1回から営業・企画などの実務経験ができるように設計した実践的な長期インターンシップを提供し、実務指導を通じて、社会人基礎力・働く姿勢を育む環境を共に創っている。

大企業の部 優秀賞

企業・団体名	南日本ハム株式会社
プログラム名	南日本ハム教育支援活動「学びの種まき隊」 テーマ：食べることは、生きること（食育・環境教育プログラム・よのなか先生）
活動の内容 （概要）	【人】が未来をつくるのであれば、【人】をつくる【食】への教育は人づくり地域づくりの重要な軸である。持続可能な社会の実現に向け、「地域の宝」である子供たちへの教育支援は地元企業の重要な責任のひとつであり、積極的な教育 CSR は未来への投資であると捉え、専任者を配置し精力的に活動を行っている。 活動テーマは、『「食べることは、生きること」～「命をいただく」ということは「命を大切にすること」ということ～』。 企業資源を生かした各プログラムを通じ自己肯定感、他者を大切にする心、職業への理解、ふるさと教育、社会・世界と自己の関わり、就業意識の醸成へと繋ぐ。教育行政のコーディネートシステムを活用し、産官学の【共創】による価値創造から社会課題を効果的に解決する可能性が広がる。企業見学、出前授業、セミナー等いずれも対応可。食育や環境教育に関する有資格者が講師を務める。 イベントにはせず学習となるよう先生方との事前打ち合わせを行い、目的目標を共有しパートナーとして取り組む。地域の小中学生には、体験学習を軸に事前学習と事後学習の授業を行う。「総合的な学習の時間」だけではなく、各単元を活用して授業を構成し実践している。各プログラムを基に組み合わせを行い、学校の目的目標を達する内容にカスタマイズした授業を実施。また体験学習には個と集団で学ぶアクティブラーニングを必ず取り入れる等、学びを深める工夫を行っている。
	【食べものの向こう側を知る（小学生）】 写真は、日向市教育委員会「企業等による出前授業」の様子。事前学習（別日）で学習の目的目標を生徒さん達と共有後、体験学習で弊社でと畜した豚肉を使ったソーセージ作りで【いのちをいただく】こと、【食品をつくる仕事】を五感を通じて学ぶ。後日の事後学習（発表会）にて、自己の気づきだけでなく他者の気づきも知ること、【いのちの尊さ】や【働くことの尊さ】等の理解を深める。なお本プログラムでは、弊社各部協力スタッフが各テーブルで指導者として参加する。
	【企業見学（大学生）】 写真は、2016年10月に開催した国立宮崎大学地域資源創成学部1年生のキャリア形成科目【延岡日向企業見学】での様子。事前に大学と目的目標を協議後、受け入れプログラムを設計し実施。経営者の経営理念に触れ、「企業」という組織や事業内容等を理解する事で、人生設計・進路の視野を広げることが目的のひとつである為、弊社社長の高口自らが学生へ向け登壇。

＜審査委員からの評価コメント＞

- 学校のニーズや児童への効果を考え、企業の特性を活かして学習内容が焦点化されており、説得力のある教材やリアリティのある指導で教育的効果も高い。
- 「【食】をめぐる教育」を「人づくり地域づくり」の軸として位置付け、「食べることは生きること」をテーマとして打ち出した発想力も評価できる。
- 目的・目標・内容等を各学校とすりあわせ、系統的な事前・事後指導を行うことで、学びの深化が図れている。
- 取組を業務として課題の対象とする等、会社を挙げて注力していることがうかがえる。